

平成19年度
谷田貝ゼミ 卒業論文

子どもとメディア
～テレビが子どもに与える影響～

2L 18-603 磯村 麻実
18-627 千賀 明美
18-629 角田 奈都美

目次

要約	p. 2
第1章 序論	p. 3
第2章 研究の方法	p. 4
第3章 アンケート結果	
[3.1]子どものテレビ視聴の現状	p. 5
[3.2]子どもの起床・就寝時間	p. 8
[3.3]食事中のテレビ視聴	p. 10
[3.4]親子で見る特定番組	p. 11
[3.5]テレビ視聴における家庭での決まり	p. 13
[3.6]保護者が子どもにテレビを見せる目的	p. 15
[3.7]テレビ視聴における保護者の考え	p. 15
(3.7.1)テレビから受ける影響についての保護者の考え	p. 16
(3.7.2)アンケート調査で分かる保護者像	p. 18
(3.7.3)アンケート調査で分かる子ども像	p. 18
第4章 アンケートに基づいた各重回帰分析の結果	
[4.1]子どもがテレビを嗜好する規定因に関する重回帰分析結果	p. 19
[4.2]早おきな子どもの規定因に関する重回帰分析結果	p. 20
[4.3]子どものテレビ視聴時間の規定因に関する重回帰分析結果	p. 21
第5章 まとめ	p. 22
謝辞	p. 22
参考文献	p. 23

要約

近年、テレビなどに代表される、様々なメディアがめまぐるしい発達をとげている。本来、テレビは私たちとは別の世界を映しているものであった。テレビにでてくる人たちは「芸能人」であり、私たちとは違う世界の人々である。ニュースや教育番組はほとんどが、自分が今生活している場所とは遠い所の出来事を伝える。今日、また、テレビは、私たちの主な情報源であり、多大な影響を与えているようである。

このようにテレビがあることが当たり前の生活の中で育っている子どもたちにとって、テレビが与える影響は大きいだろう。「子どもとメディア」代表知事清川氏は、テレビは保護者にとって子守をしてくれる強い見方であるかもしれない。しかしテレビの「便利さ・快適さ・安全性」は、人間の完成品である大人にとっては良いことだが、子どもはもともと未完成で生まれ落ち、生きる課程で発達してゆく生き物であるため、子どもにとってメディアの「便利さ・快適さ・安全性」はプラス面があるものの、マイナス作用があるとも言っている。視力の低下、コミュニケーション能力の低下などが上げられる。特に、乳幼児期は人間の体と心の基礎を作る大切な時期なので、大人より影響されやすい。とのべていた。そのため、子どもたちがメディアから受けるよい影響、悪い影響は何であるか知る必要がある。そしてまた、保護者にとって我が子がテレビを視聴していることについてどう考えているか、ということも踏まえた上でアンケート調査を行った。

その結果、テレビを我が子が視聴することで悪い影響があると感じつつも、つい子守の一つとして見せてしまっている保護者が多い。これから日々発達をとげていくであろうメディアが子どもたちに悪い影響を与えないよう、現在そして未来のメディアの作成者側は十分気をつける必要がある。

第1章 序論

私たちは将来保育に携わる仕事につくため、子どもたちの家庭状況や何に興味があるのかということ把握したいと考えている。最近では、メディアの流通によりテレビやインターネットが子どもたちの身近な存在になっている。特にテレビを長時間見ることによって、視力の低下が生じたり、人とのコミュニケーションのとり方が上手に出来なくなることとも問題とされている。また、テレビで見ているアニメなどの空想世界は夢を与えることにもつながっているが、逆に現実との区別が上手できなくなってしまう恐れもあるため、テレビからの影響についてより深く考える必要がある。

また、小児科医の谷村らはメディアの影響により、言葉の遅れや表情が乏しく、親と視線を合わさないなどの症状を抱えた幼児があいついでいると指摘している。

そして、米国の小児科学会はテレビや映画、ビデオ、コンピューターゲーム、インターネットなどの映像メディアが、子どもたちの健康障害を引き起こす危険性を持っていることを指摘し、メディア教育の重要性について勧告をだした。特に子どもの脳が発達する重要な時期に、人とのかかわりを持つ必要があることを重要視している。私たちは、このような問題を知り、保護者や社会がこの現状を理解して、より良い環境の中で子どもたちが成長していけたらよいと感じた。

そこで私たちはアンケート調査を用いることにより、現代の幼児家庭（3, 4, 5歳児）でのテレビの視聴時間、テレビの使用目的など保護者に尋ねるべく、回答しやすいよう厳選した14項目に渡って協力していただいた。本研究より、改めて幼児期にテレビから受ける影響の大きさを知ろうと考えた。

第2章 研究の方法

【研究方法】

①調査対象・・・3歳児～5歳児（小学校就学前の幼稚園児）

②・岡崎女子短期大学付属第一早蕨幼稚園

・岡崎女子短期大学付属嫩幼稚園

・匿名

③回収人数・・・3歳から5歳児の保護者3園計470人

④アンケート回答者・・・園児の保護者

⑤実施期間・・・第一早蕨幼稚園→12月中旬

嫩幼稚園→12月下旬

他1園→12月下旬～1月上旬

⑥アンケートの内容

1. 年齢

ア. 3歳 イ. 4歳 ウ. 5歳

2. 一日の平均テレビの視聴時間

ア. 3時間ぐらい イ. 4時間ぐらい ウ. 5時間以上

3. 誰と一緒にテレビを見ていることが多いのか

ア. 一人 イ. 友達 ウ. 兄弟姉妹 エ. 親 オ. その他（ ）

4. 親子で一緒に見る特定の番組はあるか.

あてはまるものを以下から選んで○をつけてください。

ア. ある イ. ない

※差し支えなければ、その番組を教えてください。

()

()

()

5. 食事中にテレビはついているのか

ア. テレビがついている イ. テレビを消している ウ. テレビが部屋にない

→ついている番組は大人と子どものどちらが見たい番組か

ア. 大人 イ. 子ども

6. テレビを見ていて具合が悪くなったことはあるか

ア. よくある イ. 一度以上ある ウ. 一度もない

7. テレビを見ているときの決まりを決めているか

あてはまるものを以下から選んで○をつけてください。

ア. 決めている イ. 決めていない

※差し支え無ければ、そのきまりを教えてください。

8. テレビを見終わる時間

- ア. 7時くらい イ. 8時くらい ウ. 9時くらい エ. 10時くらい
オ. 11時以降 (時)

9. お子さんが寝る時間はいつですか

- ア. 7時前 (時) イ. 7時くらい ウ. 8時くらい オ. 9時くらい
オ. 10時くらい オ. 11時以降 (時)

10. お子さんが起きる時間はいつですか

- ア. 5時くらい イ. 6時くらい ウ. 7時くらい エ. 8時くらい
オ. 9時以降 (時)

11. あなたの家庭のテレビはどのように使われていますか

- ア. ほとんどついている イ. 見ていない時は消している
ウ. ほとんどついていない

12. お子さんにテレビを見せる目的はなんですか

- ア. 言葉や知識を豊富にするため イ. 手が離せないときの子守のため
ウ. 歌と踊りをさせるため エ. ないているときに機嫌を良くするため
オ. 生活習慣を学ばせるため カ. その他

13. お子さんはテレビは好きですか

- ア. 大変好きである イ. 好きである ウ. どちらともいえない
エ. 嫌いである オ. 大変嫌いである

14. テレビはお子さんの成長にどのような影響があるとおもいますか

- ア. 大変良い影響 イ. 良い影響 ウ. どちらでもない
エ. 悪い影響 オ. 大変悪い影響

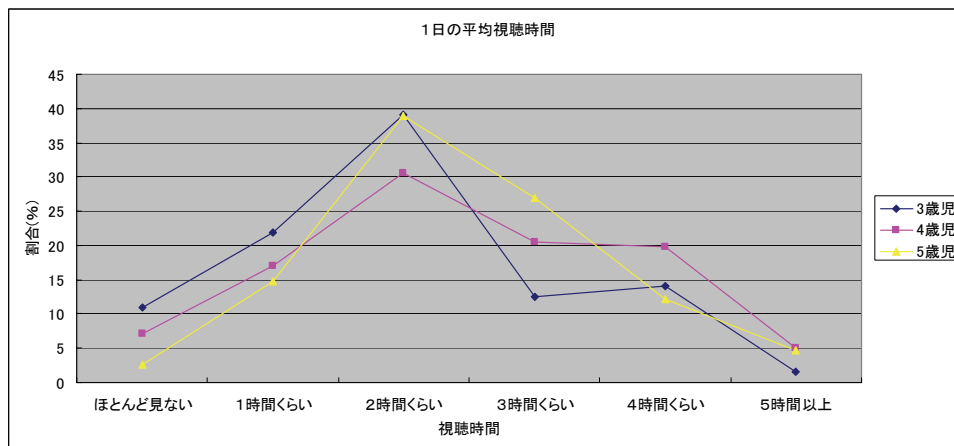
⑦アンケートをする目的

各メディアが進む今、保育の中にもさまざまな物が取り入れられている。実習に行かせて頂いた保育園では、お昼寝の際平日は絵本や紙芝居であったが、休日の預かり保育ではビデオを活用していた。また、体操や歌をビデオ通して楽しむ姿もあった。この様に様々な所で映像メディアが保育に利用されている中で、保護者の方々は、多様なメディアが子どもに及ぼす影響をどのように考えており、子どもとテレビの関わりがどのような現状であるのかを調査することが目的である。

第3章 アンケート結果

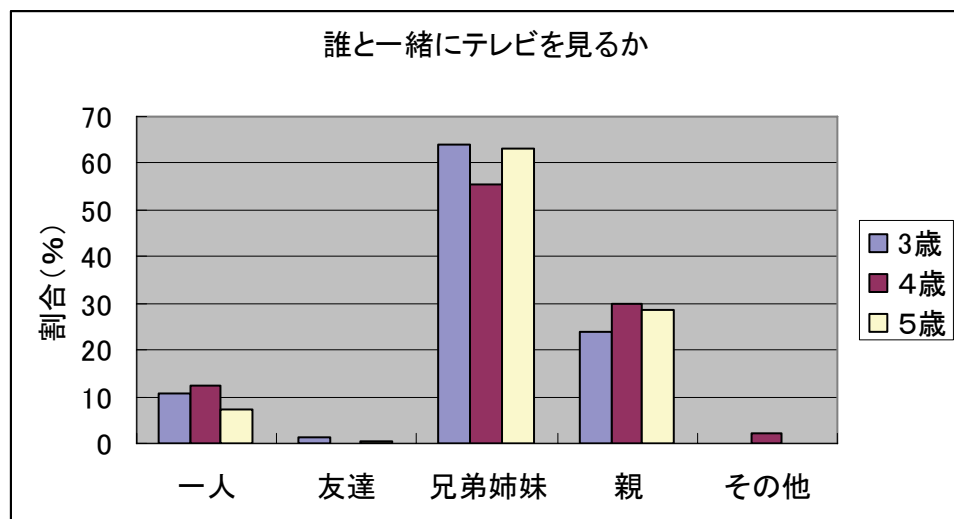
[3.1] 子どものテレビ視聴の現状

図 1



* 図 1 は、アンケート項目 2 より、各年齢ごとに 1 日の平均視聴時間を表したものである。この図を見て分かるように、年齢が上がるごとに視聴時間は長くなっている。そのため、3 歳児においては短時間が多く、長時間の視聴は少ないようである。それに比べて、5 歳児は知識もある上に、興味があることが多いため、テレビを長く見ている子がいることが分かる。4 歳児はその間であるといえるだろう。

図 2

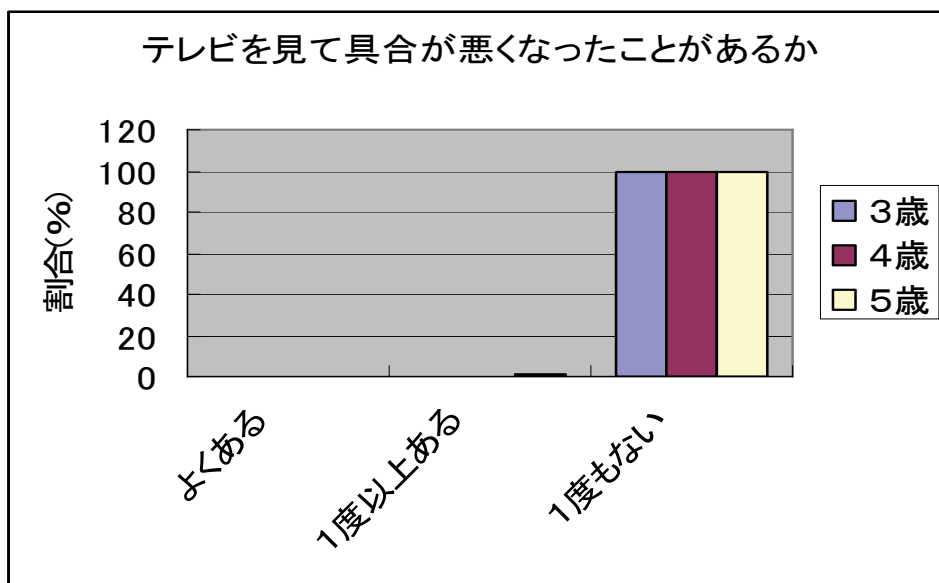


* 図 2 より、兄弟姉妹と一緒にテレビを見ている子は、3・5 歳児 60%以上、4 歳児約 55%であり、圧倒的に多い。そして、次に親と見る子がどの年代も 20%を超えている

また、一人で見ている子が4歳児がでは、10%を超え1番多く、5歳児が3・4歳児よりも少ない結果となった。

また、3・5歳児は友達と見ることがあるようだが、4歳児は友達と見るよりも、その他（祖父母）が多いことがわかる。

図3



* 図3より、具合が悪くなったことが一度もない子はどの年齢においても100%に近いのぼる。反対に、テレビを見ていて具合が悪くなったことがある子はアンケートの中で1件だけであった。

また、よく具合が悪くなる子はアンケートの中で一人もいないことが分かった。本調査結果から、マスメディアから発展されるほど、頻繁にテレビによって、具合の悪くなる子どもがいるとは考えにくく、ごく一部の子どもにみられる症状と考えられる。

事例

次の事件は、多くの保護者の記憶に残っているだろう。

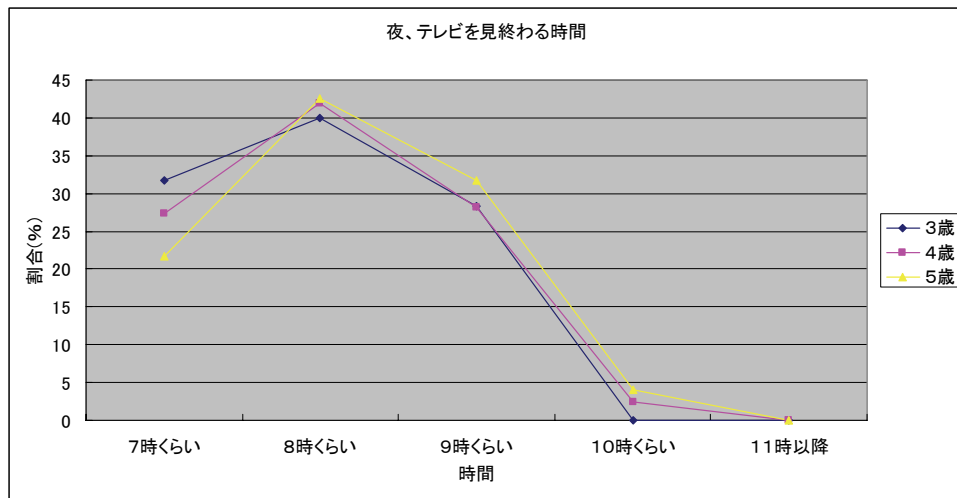
1997年12月16日。テレビ東京系ネット局で放映されたアニメ「ポケットモンスター」を見た子どもたちが、全国で一斉に身体の不調を訴えたり、意識消失・ケイレン発作などを起こし、700人余りが病院で手当を受け、内200人近くが入院した。しかし時間の経過とともに被害は拡大、最終的には何らかの不快感を訴えた子どもは、1万人以上にもおよんだ。ちなみに問題のシーンはたったの4秒間、コマ数にして約100コマ程度であった。



この原因は、光感受性発作を引き起こしやすい赤と補色に近い青の点滅であったこと、その赤と青が画面の大部分を占める点滅が4.5秒も続いたことが上げられている。この事件後から、アニメや番組が始まる際に必ず「テレビを見るときは、部屋を明るくして、離れて見ましょう！」と言う注意をよく見るようになった。

私たちの調査では、日常のテレビ視聴においてはほとんど起こらない体調不良が、本事件では、大勢に起こっている現状を考えると、テレビ製作者は、十分検証の上で映像作品をつくる必要があるといえる。

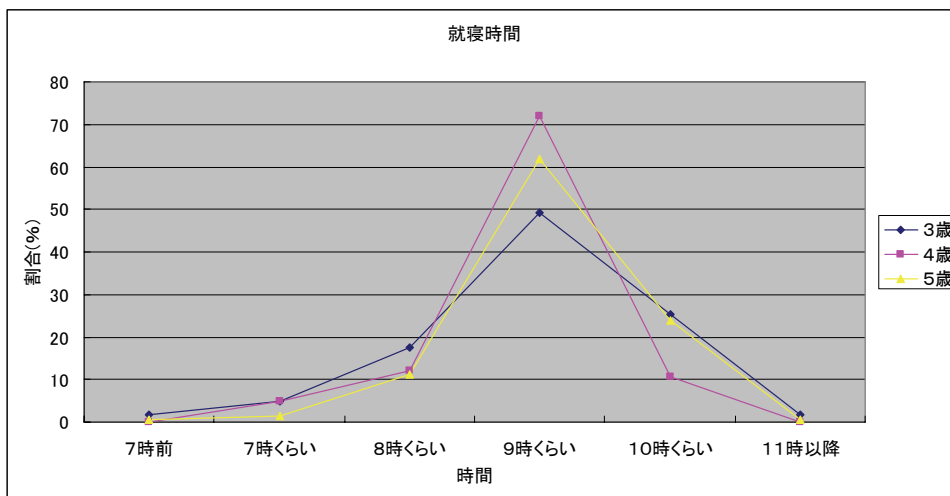
図 4



* 図 4 は、アンケート結果を元に一日のテレビを見終わる時間を図にしたものである。テレビを見終わる時間は、3歳、4歳、5歳ともほとんど差がない。そのため、テレビを見終わる時間は年齢によって変化するものではないことが分かる。

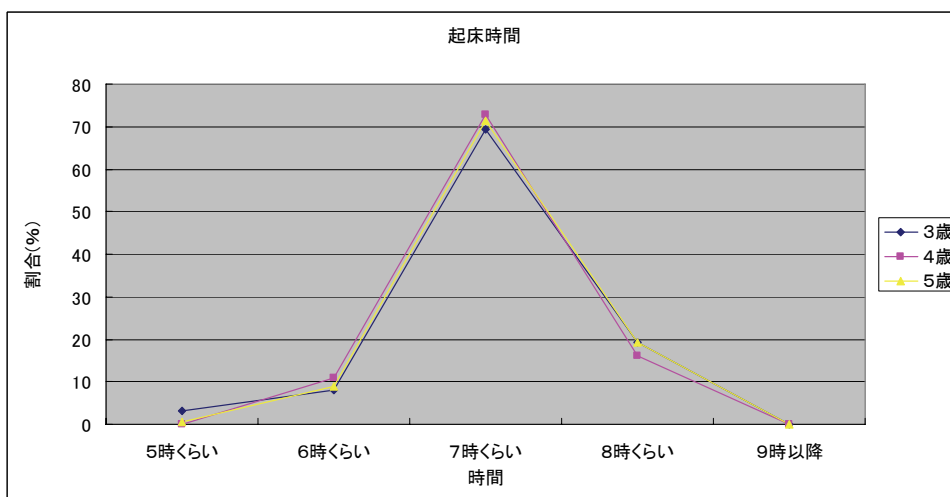
[3.2]子どもの起床・就寝時間

図 5



* 図5は、アンケート結果を元に就寝時間を図にしたものである。どの年齢においても9時ごろ寝る子が多いようである。しかし、3・5歳児は10時ごろまで起きている子がいるということが分かる。

図 6



* 図6は、アンケートを元に起床時間を図にしたものである。どの年齢においても7時に起床している子が圧倒的に多くいる。これは、幼稚園へ行く時間が大きく影響されていると考えられる。自分から起きるというより、親が登園時間に間に合うように起こしているようだ。そのため、土日は遅めに起床している子もいるようである。

3歳児の特徴

3歳児はまだテレビを見たいという気持ちがないのか、「ほとんど見ない」か見ても1日に「1～2時間」の子がほとんどである。また、親が子守のためにテレビをつけている家庭もある。

また、9時前に寝る子が多いため、寝るまでの間にテレビをつける傾向がある。そのため、ドラマを見ている子は他の年齢に比べて少なく、アニメやクイズ番組、教育テレビを見ている子が多い。

4歳児の特徴

3歳児よりも起きている時間が長い分、テレビの視聴時間も長い。また、5時間以上テレビを見ている子は、降園してから継続的に見ているということが分かる。そのため、アニメや教育番組だけではなく、バラエティやドラマも見ている子がいると考えられる。

5歳児の特徴

5歳児はテレビを見終わる時間が遅いため、寝る時間も遅い。しかし、起床時間は早いため、朝からテレビを見ている子もあり、相対的に睡眠時間は短い。

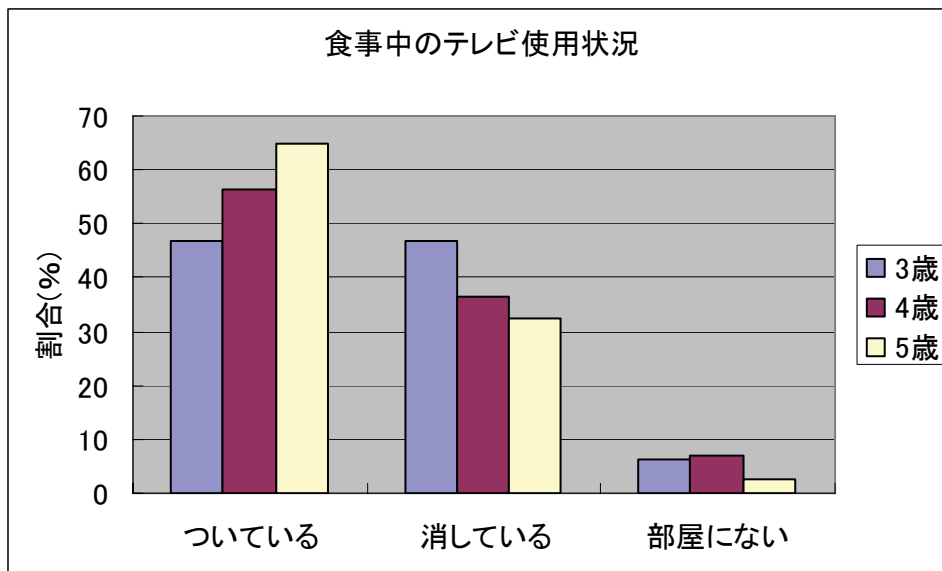
また、5歳児は習い事をしている子も多く、4歳児と比べてテレビを見ている時間が同じか、多少短いと考えられる。

考察

以上の結果より、子どもたちの起床時間・就寝時間は、テレビの視聴時間に関わっていると予想される。よって、次章でその因果関係を重回帰分析により明らかにする。遅くまで起きている子は、長い時間テレビを見ているため、就寝時間は遅くなっている。年齢別に考えてみると、やはり年齢が上がるにつれて、テレビの楽しさを知り、興味を持つ子どもが増え、テレビを見る時間が長くなると考えられる。また、朝早く起床する子は、朝のテレビを楽しみにしていると考えられる。また、夜遅くまでテレビを見ている子は、教育番組が終わっているため、バラエティやドラマといった大人向けの番組も見ていると考えられる。

[3.3] 食事時のテレビの使用状況

図7



* 図7より、食事時にテレビがついてると解答した家庭が5歳児60%以上、4歳児55%以上、3歳児35%以上で、どの年代も1番多いことが分かる。そのため、食事時にテレビを見ている家庭が多いことが分かる。3歳児の家庭では、45%以上でついてる家庭と35%で消している家庭があり拮抗している。そして、食事を食べる部屋にテレビを置いていない家庭は、どの年代も10%以下で少ないということが分かる。なお、小児科学会では食事時のテレビ視聴についての以下のような提言が提示されている。

「テレビ視聴時には、例え親子で一緒に見えても、親の話しかけや親子が向き合って長く会話することが少ない。一般に大人はテレビがついてると頻繁にはしゃべらないし、相手の顔を見て話すことも少ないためであろう。従って、テレビが長時間ついてると会話が増減して言語発達の遅れを招き易い。事実、長時間視聴児は視聴時に親が説明するなどの関わりがあっても、視聴時に指さして質問するなどの親への働きかけは減少しないが、有意語の遅れは多かった。視聴時に親が関わっても長時間の視聴は児に悪影響を及ぼす。

視聴時の親の関わりが少ない長時間視聴児では有意語出現が遅れる率が顕著に高く、そうでない児の2.7倍に達していた。有意語の他、言語理解、社会性、運動能力にも遅れ傾向がみられた。従って、乳幼児にテレビ・ビデオを一人で見せてはいけない。」

このように、テレビを見ることで子どもの発達に受ける影響は、大変大きいことが分かる。テレビ視聴時の親子の会話は少ないと指摘されている。現代では、食事でもテレビを見ているため、家族団らんのせつかくの時間を無駄にしているといえる。

また、テレビを見ているとき、子どもたちと会話をしない親が多いことで、有意語、言語理解、社会性、運動能力にも影響が出ているとの指摘もあるため、親子でのテレビ視聴について見直す必要があるであろう。

[3.4] 親子で見る特定番組

表 1

3歳児	教育テレビ、志村動物園、動物奇想天外、クイズ番組、しまじろう、プリキュア、サザエさん、ちびまる子ちゃん、アンパンマン、名探偵コナン、ポケットモンスター、ゲゲゲの鬼太郎、恐竜キング、暴れん坊ママ
4歳児	ヘキサゴン、はねるのとびら、志村動物園、スポーツ番組、教育番組、ポケットモンスター、ドラえもん、クレヨンしんちゃん、動物奇想天外、ネプリーグ、仮面ライダー、ケロロ軍曹、ちびまる子ちゃん、ゲゲゲの鬼太郎、東京フレンドパーク、吉本新喜劇、IQサプリ、プリキュア、暴れん坊ママ、ニュース、サザエさん、アンパンマン、トムとジェリー、エンタの神様、お願いマイメロディ
5歳児	ダーウィンが来た、ちびまる子ちゃん、ポケットモンスター、ナルト、ウルトラマン、名探偵コナン、教育テレビ、ワンピース、仮面ライダー電王、サザエさん、IQサプリ、鉄腕DASH、連続テレビ小説、志村動物園、動物奇想天外、暴れん坊ママ、ニュース、ケロロ軍曹、TVチャンピオン、地球ドラマチック、まるまるちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん、ドラえもん、エンタの神様、東京フレンドパーク、ドキュメント番組（大家族など）、ゲゲゲの鬼太郎、竜王キング、ガリレオ、ドラゴンボールZ、アンパンマン

* 子どもたちは、やはり人気のキャラクターが登場するアニメや楽しく歌・英語などを覚えることができる教育番組を見ている。どの年代も親子で教育番組やアニメを見ている家庭が多いため、保護者は子どもたちが楽しんでいるものを一緒に見る傾向がある。また、それらは夕方や朝といった決まった時間帯の番組がほとんどである。

夜はクイズ・バラエティ・ドラマが多くあり、大人向けのテレビ番組を中心に一緒に見ていることが分かる。

このアンケート結果で分かったことち、その問題点は、健司ににより次のように指摘されていた。

『テレビは子ども達に最も強く影響を与えます。何故なら、子どもは人間生活を学習している時期であり、生活の中に、それらを取り入れようとするからです。子ども達は善悪の判断ができません。テレビの出来事は、彼らの生活の中で、真実となりえるのです。テレビは大人にとっては娯楽ですが、子どもにとっては現実なのです。この矛盾はどうしたらいいのか「子どもにテレビを見せないようにしよう」という人もいます。しかし、子どもはテレビの面白さを十分に知っているから、それはできません。それに、全てのテレビ番組に、暴力シーンが写るわけではない。いくつかの番組では、科学や歴史上有名な人の伝記なども教えてくれる。それらは実際新しい学習方法であり、子供達に学習に対する喜びを見つけ出してくれる。私たちが焦点を合わすべきは、いかに正しい人に正しい番組を提供するかです。今は欲しい人にだけ提供する“プレイボーイ”チャンネルというのもあります。同じような方法で、もっと多くの領域を創造しなければなりません。私たちはその領域の違いを創れるでしょう。』

このように、大人のテレビ視聴と子どものテレビ視聴での影響は、違っているということが指摘されている。子どもにとって、テレビは真実であるゆえに多大な影響を与えてしまうため、保護者らのテレビ番組の見極めや言葉がけが大切になるといえる。子どもにとって真実になってしまうテレビからの情報は、提供する側と受ける側の連携が大切であり、メディア製作者側は、視聴者が欲しがっているテレビ番組を正しい時間帯に配信することが必要になると思う。また、健司の言っている、“プレイボーイ”チャンネルという方法を一般化し、番組を選択的に視聴できるしくみも必要である。ていく必要があるだろう。

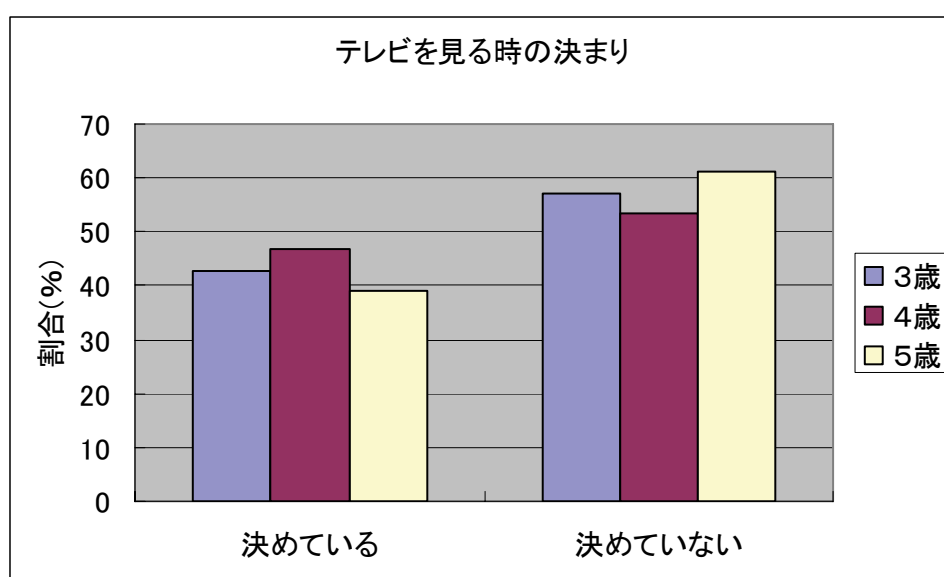
また、子どものテレビ視聴にかんする研究している川崎医大小児科の片岡直樹教授はインタビューで次のように述べている。

「テレビ画面は二次元なのに、大人が遠近感を感じられるのは、頭の中にある過去の体験とすり合わせているから。しかし、そんな体験を持たない子どもは、平面的な認識しかできな。神経回路が頭の中に作られていく過程でテレビを見続けていると、両目で見る立体的な認識が育ちにくくなり、五感もなかなか育たない。」

このように大人と子どもとは、経験量が違うため、テレビから感じることや考えること、学ぶことも違う。経験が少ない状態でテレビを見てしまうと、全てを受け入れてしまうため、自分で感じる心が育たない上に、頭で考えたりすることをしなくなってしまうい、心の発達に大きな問題と言える。

[3.5] テレビ家庭での決まり

図 8



* 図 8 より、どの年代も決まりを決めている家庭よりも決めていない家庭が多いということが分かる。5歳児を見てみると、決めている家庭が約40%で一番少なく、決めていない家庭が60%以上もいる。次に4歳児を見ると、5歳児とは反対で決めている家庭が約45%で一番多く、決めていない家庭が約55%で一番少ない。また、3歳児は決めている家庭が40%以上で5歳児よりは多く、4歳児より少ないことがいえる。そして、決めていない家庭が約55%で、4歳児よりは多く、5歳児より少ないことがわかる。

テレビを見る決まり（アンケートでの意見）

3歳児

- ・ やることをきちんと終えてから見る×3
- ・ 食事中はテレビを切っておく×3
- ・ 時間を決めておき、それ以降は見ない×2

4歳児

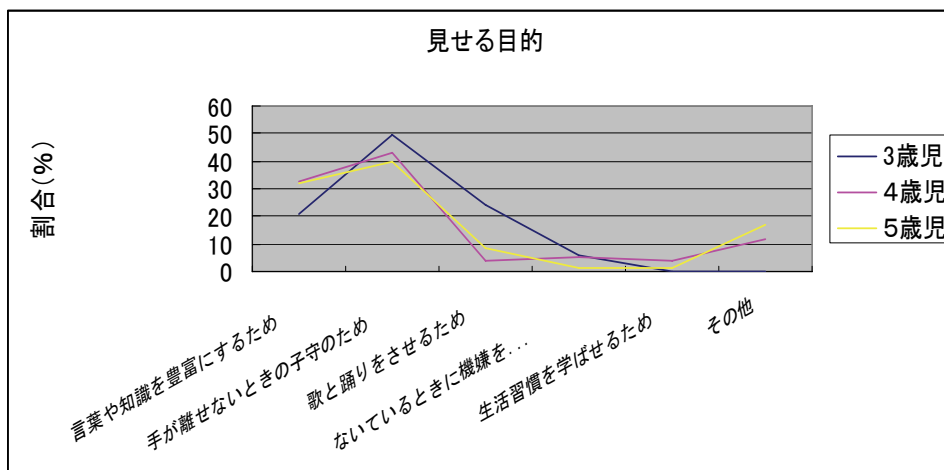
- ・ 連続で長い時間は見せない、休憩をとるようにする×4
- ・ 寝ながら見ずに、座ってみるようにする、テレビから離れて見るようにする×2
- ・ 土曜日、日曜日は好きなように見ても良い×2
- ・ 父親が帰ってきたら父親優先×3
- ・ 子どもが「テレビを見たい」と言わない限り見せない
- ・ 食事中はテレビを切っておく×4
- ・ 平日の朝はテレビをつけない×2
- ・ 殺し合いの番組など刺激の強い番組は避ける
- ・ 平日は教育番組だけにする×2
- ・ テレビを勝手につけない
- ・ 番組を指定している（〇あんパンマン、しまじろう、×クレヨンしんちゃん）
- ・ 見たい番組だけを見せる

5歳児

- ・ ご飯中はテレビをつけない×3
- ・ テレビに近づいて見ない×2
- ・ 見たい番組だけを見るようにする
- ・ 教育番組を見るように心がけている
- ・ 見せたい番組を決めておく×2
- ・ テレビに集中しないようにする、時間を決めておく×16
- ・ 日本のテレビは番組内容コードが出ないためバラエティは見せない
- ・ 明かりは必ずつける
- ・ 勉強中はテレビをつけない

[3.6] 保護者が子どもにテレビを見せる目的

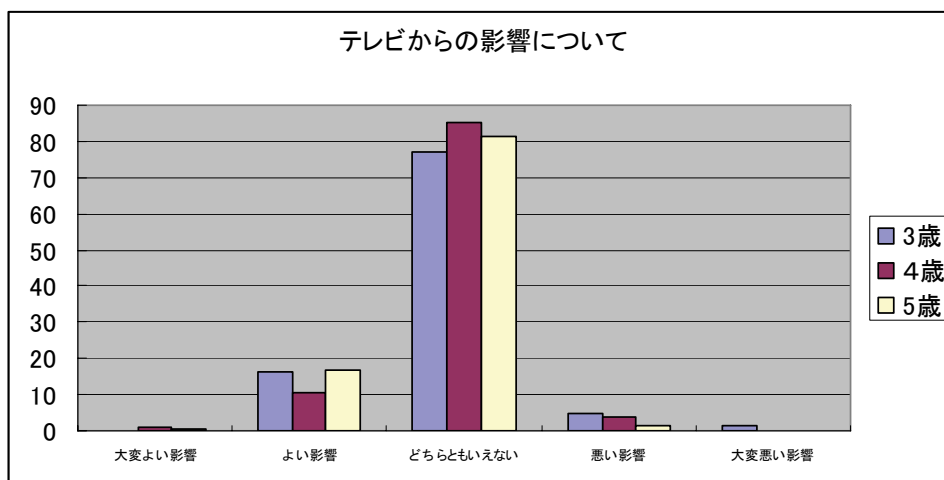
図 9



* 図9より見せる目的は年齢によって変化が見られた。全体的に手が離せないときの子守が多いが、4・5歳児は言葉や知識を豊富にするためという回答も多かった。子守のために見せているという回答に注目すると、3歳児が一番多い。また、歌や踊りをさせるためも3歳児が多いという結果が出た。感じているときに機嫌を良くするためは、3・4歳児は数名いたものの、5歳児はほぼいなかった。生活習慣をまなばせるためは、3・5歳児は少なく4歳児が多かった。

[3.7] テレビ視聴における保護者の考え

図 10



* 図10より、どの年代も「どちらともいえない」と回答した保護者が圧倒的に多い。特

に5歳児、4歳児は80%以上を占め、ほとんどの保護者が「どちらともいえない」と考えている。そして、テレビを「悪い影響」と考えている保護者よりも「よい影響」と考えている保護者のほうが、やや少しだが多い。また、3歳児のグラフを見てみると、「大変よい影響」と考えている保護者はいないのに比べ、「大変悪い影響」と考えている保護者が少しだけいるということが分かる。

(3.7.1) テレビから受ける影響についての保護者の考え（アンケートでの意見）

3歳児

「よい影響」と考える

- ・ テレビを見ることで文字を覚えたり、ことわざを覚えたりするなど、学ぶことが多々あるから×3

「どちらともいえない」と考える

- ・ 見せたい内容のものと見せたくない内容のものがあるから
- ・ 生活習慣を学べたり、歌・踊りを楽しめたりするが、目が悪くなる可能性があるから
- ・ 歌などを覚えれるが、見せたくないシーンが時々あるから（暴力シーン、バラエティでの汚いシーンなど）
- ・ 子どもが間違えた理解をしたら困るような番組があるから
- ・ 勉強になるような番組を見るなら構わないが、そういう番組を見ないで違う番組を見ているから

「悪い影響」と考える

- ・ 人とのコミュニケーションを取るのが苦手になりそうだから
- ・ テレビがなければ、親子での会話が増えたり、自分で遊びを考えたりすることができるから

4歳児

「よい影響」と考える

- ・ テレビだけに頼らないようにすれば、良い影響を与えるものだと思うから
- ・ 友達との交流の話題になるから
- ・ 想像力を高めることができるから
- ・ 親ではうまく教えられないこともテレビから自然と学ぶことがあるから2
- ・ 教育番組は楽しみながら学ぶことができるから×2
- ・ 知識が増えるから
- ・ くだらない番組は見せないようにしているから

「どちらともいえない」と考える

- ・ 教育番組は学べる内容が多々あって良いと思うが、番組によっては子どもに見せたくない内容（下品もの）があるから×9

- ・ 様々なことが学べるのは良いと思うが、全て受身になってしまうため自分で考えて遊ぶことをしなくなってしまう気がするから×3
- ・ 子どもは吸収が早いため、悪いことも良いこともすぐ覚えてしまうから×4
- ・ 学べることは多いが、目が悪くなる可能性があるから×3
- ・ 学べることは多いが、夢中になりすぎてやるべきことをやらないことがあるから×2
- ・ 今までテレビを見せることがどういうことなのか考えたことがないから×2
- ・ 親が良い番組と悪い番組を見極めれば良いと思う×3
- ・ 楽しいことを知るのには良いが、殺人事件などに興味をもってしまうことがあるかもしれないから×2
- ・ 人とコミュニケーションを取るきっかけになるが、目が悪くなる可能性があるから
- ・ 受けみな観点だけではなく、その先に自発的行動がともなっていれば良いと思うから
- ・ 悪い影響があると思いつつも、手が離せないときには仕方ないから見せている
- ・ 見せるだけではなく、それについての会話をすれば良いと思うから

「悪い影響」と考える

- ・ 良い影響はないと思うから

5歳児

「良い影響」と考える

- ・ 明るくふるまうことが多いから
- ・ 言語表現が豊かになるから
- ・ 親や幼稚園が教えられることを学べるから×4
- ・ 親がきちんと選んで見せたら悪影響になることはないと思うから×3
- ・ 悪い影響よりも良い影響を与えるほうが多いと思うから
- ・ 興味のあることを映像で知ることができるから×2
- ・ 人との会話が増えるから
- ・ 映像で見ることにより理解しやすいと思うから
- ・ テレビ視聴は情報源になるため現代社会では必要なことだと思うから

「どちらともいえない」と考える

- ・ 親がテレビの見せ方を気をつければ良いと思うから
- ・ 見続けるのはよくないが、人とのコミュニケーションを取るきっかけになるから
- ・ 良い影響を与える番組もあるが、悪い影響を与える番組もあるから×23
- ・ 悪影響があるというが、自分自身今まで見てきて影響があると実感したことがないから
- ・ 父親がテレビをつけっぱなしにしているから子どもも見ている
- ・ 自分の好きなキャラクターや芸人の真似を過度にするから（言葉使いなど）×9
- ・ テレビの影響について深く考えたことがない
- ・ 様々なことを学べるが、夢中になってやるべきことをやらないから×5
- ・ 悪い影響はないが、テレビを見ている時間に他のことができるためもったいない気がする

るから×2

- ・ 学ぶことは沢山あるが、視力・学力の低下につながるから
- ・ アニメやバラエティをよく見ているから
- ・ たくさんのことを学べるが、受身になり自分でやろうという気が起こらなくなるから

「悪い影響」と考える

- ・ 教育実践法の講習に行き、7歳まではテレビを見せないほうがいいと聞いたから
- ・ テレビを見ていると、話しかけても返事もしないため、会話が減るから

(3.7.2) アンケート調査で分かる保護者像

アンケート調査を行い、子どもたちが受けるテレビからの影響には良い影響と悪い影響どちらもあると考えている保護者が多いということが分かった。良い影響を与える番組の一つは、教育番組であり、その理由は英語や歌やことわざが楽しく覚えることができることである。もう一つは、動物番組やドキュメント番組で知らないことを学習したり、感動することができるからと答えた保護者が多くいた。反対に、悪い影響を与える番組としては、「クレヨンしんちゃん」やバラエティ番組のような下品な言葉が出てくる番組だという回答が多かった。また、良い影響しかないと回答した保護者は、親がしっかりとテレビ番組を見極めていれば悪い影響を受ける番組を見ずに済むと考えていることが分かった。このように、子どもたちは吸収が早く真似をする可能性が高いため、良い番組と悪い番組を親がしっかりと見極めていれば、良い影響を与える教育番組などは見せても構わないという保護者像があるといえるだろう。ただし、継続的にテレビを見ていると、受身になり、自分で考えて行動しなくなったり、視力が低下する可能性があるため、時間を決めて見せている保護者が多い。

(3.7.3) アンケート調査で分かる子ども像

アンケート調査を行い、子どもたちはテレビを見るとつい夢中になってしまいがちで、親が話しかけたりすることが耳に入っていないことがある。また、好きなキャラクターや流行の言葉があると、すぐに真似をしてしまうことがある。しかしそれが人とのコミュニケーションをとるきっかけとなっているようだが、テレビの世界を現実と混同している現われだともいえる。

しかし、子どもたちはテレビを見ることにより、楽しく踊りや歌、英語、ことわざを学習している。そのため、幼稚園や親から得られないことをテレビで学習できるという以外もある。

第4章 アンケートに基づいた各重回帰分析の結果

前章のアンケート結果を受け、子どもの日常とテレビに、どのような因果関係が存在するのか明らかにするため、本章ではアンケート質問項目を各変数として重回帰分析を実施した。分析に用いたソフトはSPSS 15.0jである。各質問項目は「ア.」を5点、「オ.」を1点とした5段階尺度で変数を投入した。なお、時間を問う質問事項は6項目あるものも存在するため、6項目の質問に対しては「オ.」と「カ.」を統合して1点とした。

[4.1] 子どもがテレビを嗜好する規定因に関する重回帰分析結果

表2：子どもがテレビを嗜好する規定因に関する重回帰分析結果（標準偏回帰係数）

質問紙項目 13	
質問紙項目 1 4	0.120*
質問紙項目 9	-0.151*
質問紙項目 2	-0.289**
自由度調整済R ²	0.230**

*5%有意, **1%有意

分析結果：

子どもがテレビ好きになった理由は、第一に最も係数が高い項目 2 の平均視聴時間が長いことが上げられる。また、子どもがテレビ好きな家庭は項目 9 より、子どもの就寝時間が遅いことも要因となっている。このような家庭の保護者は項目 1 4 より、テレビが与える子どもの成長への影響に対し、肯定的な考えを持ち、テレビは子どもの成長によい影響があると考える傾向が見られた。

[4.2] 早おきな子どもの規定因に関する重回帰分析結果

表3：早起きな子どもの規定因に関する重回帰分析結果（標準偏回帰係数）

	質問紙項目 10
項目 13	0.374**
項目 9	0.333**
項目 2	0.066
自由度調整済R ²	0.325**

*5%有意, **1%有意

分析結果：

早起きする子どもは、テレビ好きであることが大きな規定因となっている。また、項目 9 から寝る時間が早いこともテレビ好きとほぼ同等な大きな規定力を示した。また、項目 2 よりテレビ視聴時間は長い傾向がある。

[4.3] 子どものテレビ視聴時間の規定因に関する重回帰分析結果

表4：子どものテレビ視聴時間の規定因に関する重回帰分析結果（標準偏回帰係数）

	質問紙項目2
項目8	0.284**
項目9	0.021
項目10	0.017
項目13	-0.272**
項目14	-0.066*
自由度調整済R ²	0.185**

*5%有意, **1%有意

分析結果：

平均視聴時間が長い子どもはテレビを見終わる時間が夜遅いことが規定因となっている。また、テレビ好きだということも理由のひとつである。このような家庭の保護者は、テレビが与える子どもの成長への影響に対し、肯定的な考えを持っている。就寝時間、起床時間はともに遅い。

アンケート調査で分かる保護者像

アンケートの結果から、テレビが子どもに与える影響について肯定的に考えている保護者が多いことがわかった。テレビの影響について肯定的に考えていると、当然視聴時間が長く、見せる機会も多くなる。これは、保護者自身も幼少時からテレビが好きで、いまだにその気持ちが残っているからだといえる。

アンケート調査で分かる子ども像

子どもがテレビ好きになる理由は平均視聴時間が長いことが大きな原因だということが分かる。また、平均視聴時間が長い子どもは就寝時間が遅いという結果も出ている。早起きする子どもは朝の子ども向け番組が好きで、それを見るために早起きしている可能性があると考えられる。そして早起きな子どもは、早寝ではあるがテレビ視聴時間は長い傾向があることから、テレビ好きなことを裏付けている。しかし、朝の子ども向けの番組やアニメなどの特定の番組が好きなことから夜の視聴時間は短いと考えられ、よって早寝早起きな生活リズムとなる。早朝に好きな番組をやっているの、好きなキャラクターを見るために、早寝早起きをすると考えられる。見終わる時間が遅く、平均視聴時間が長いということは、夜遅くまでテレビをよく見ていると考えられる。遅くまで見ていることで就寝時間も遅くなり、起床時間も遅くなる。

第5章 まとめ

今回、私たちはメディアが子どもに与える影響の中でも、子どもがテレビから受けるよい影響、悪い影響は何であるか知るためにアンケート調査を行った。アンケートでは、現代の幼児家庭(3, 4, 5歳児)のテレビの視聴時間やテレビの使用目的などを保護者に尋ねるとともに、的確に認識できるよう14項目に渡って協力をしていただいた。

アンケートの結果により、保護者の多くはテレビが子どもに与える影響をどちらかという肯定的に考えているという結果がでた。また、平均視聴時間が長い子どもは、見終わる時間が遅く、就寝時間や起床時間も遅くなる傾向があることもわかった。

テレビを見ている時親子での会話が少なくなる。会話が減ることによって、有意語、言語理解、社会性、運動能力にも影響が出ていることが医学的にも言われている。一方で、テレビを見ることによって、逆に、コミュニケーションが広がると考えている親もいることが分かった。また子どもたちもテレビのキャラクターの真似などをして、友達との関係を築き上げていくことができるようだ。そのため、テレビを見せることイコールコミュニケーション能力の低下とは簡単言えない状況にあるようだ。現在のテレビ視聴に対する姿勢としては、テレビを見るときは一人だけで見ているよりも兄弟・姉妹や親と一緒に見ていたり、ルールを決めている家庭も40%前後りと、うまくテレビと付き合い合っている家庭もあるが、あまり意識していないと家庭もあった。

親が、テレビの影響について肯定的に考えていると、当然子どものテレビの視聴時間もそれに伴い長くなっていることがわかる。そのような環境におかれた子どもはテレビ好きになる傾向が今回のアンケート結果に対する重回帰分析の結果から分かった。それと同時に、子どもに好きなテレビ番組ができることにより、それを見ようと子どもたちが早起きをすることも分かった。このことから、子どものテレビへの意欲が早寝早起きの生活リズムを形成するきっかけになっていることが分かる。

3章で述べたとおり、テレビの長時間視聴は子どもにとって良い影響を与えるとは言いがたい。家庭でもルールを決めたり、こまめに消したりすることを心がけ、テレビをただ見ておしまいではなく、テレビの内容について子ども一緒に振り返り親子で語り合うことで、コミュニケーションのきっかけにもなる。このように、テレビやメディアの良い点と悪い点を踏まえて利用することが、子どもの発達には重要である。

謝辞

本研究は多くの方々のご協力により実施できました。特にお手間と時間を割いて頂きアンケートにご協力くださった第一早蕨幼稚園、嫩幼稚園、他匿名の園の先生方、保護者の方々に深く感謝いたします。なお、本論文作成、調査票の作成にあたり、ご助言を頂きました岡崎女子短期大学の谷田貝雅典先生に感謝申し上げます。

参考文献

- ・ <http://www.benesse-jisedaiken.co.jp/media/medianews/index.shtml>
『Benesse 次世代育成研究所』
- ・ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/gijiroku/017/03042201.htm
『文化庁文化部国語課 文化審議会 国語分科会国語教育等小委員会（第1回）議事要旨』
- ・ http://homepage1.nifty.com/home_aki/pokemon38.htm
『テレビアニメ資料館』
- ・ <http://www.jouhukuji.org/page014.html>
『日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会乳幼児のテレビ・ビデオ長時間視聴は危険です』 谷村、高橋、片岡、富田、田辺、安田、杉原、清野
- ・ 書籍 『人間になれない子どもたち』: 清川 輝基 エイ出版社
- ・ <http://www.kknews.co.jp/kenko/kodomokokoro/041016.html>
『健康号 メディアと子ども テレビとうまくつき合う環境づくり』
- ・ <http://www.chugoku-np.co.jp/kikaku/interview/ln04050201.html>
『中国新聞 「テレビが子守」禁物 川崎医大小児科 片岡直樹教授に聞く』
- ・ <http://www.jpeds.or.jp/saisin.html>
『日本小児科学会 提言』 健司